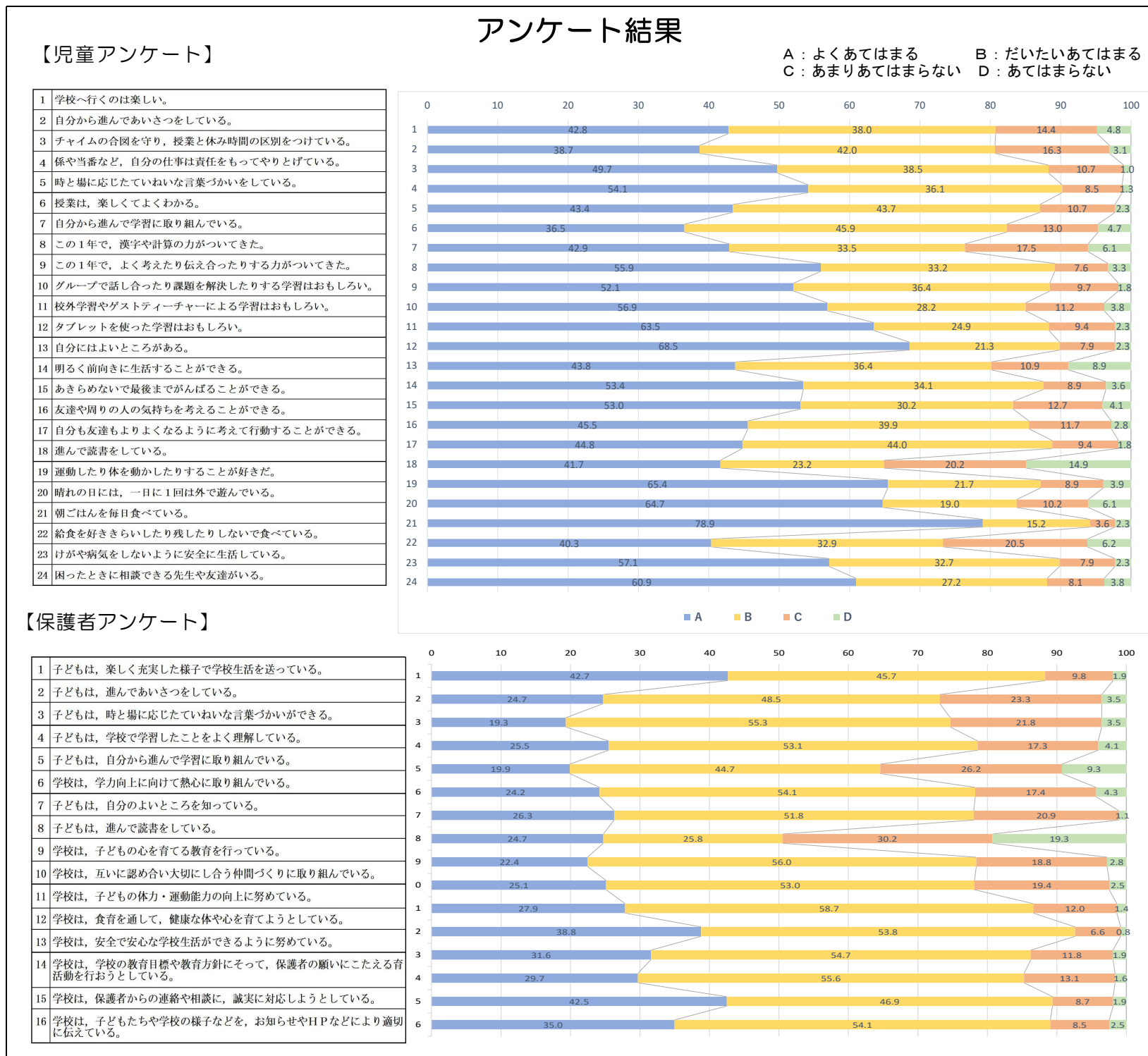


「学校教育に関するアンケート」結果について

本校の教育活動をより充実したものにすするため、学校運営、教育活動、子どもたちの様子について、保護者の皆様に「学校教育に関するアンケート」をお願いしました。ご協力ありがとうございました。学校で実施した子どもたちのアンケートとともに結果の報告をいたします。今回の結果をもとに、学校評価を行い、来年度からの学校運営に生かしてまいります。今後ともご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



1 基本的な生活習慣 ※あてはまる (A+B) あてはまらない (C+D)

●児童アンケート		(%)	
番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
1	学校へ行くのは楽しい。	80.8	19.2
2	自分から進んであいさつをしている。	80.7	19.3
3	チャイムの合図を守り、授業と休み時間の区別をつけている。	88.3	11.7
4	係や当番など自分の仕事は責任をもってやりとげている。	90.2	9.8
5	時と場に応じたていねいな言葉づかいをしている。	87.1	12.9
●保護者アンケート			
1	子どもは、楽しく充実した学校生活を送っている。	88.3	11.7
2	子どもは、進んであいさつをしている。	73.2	26.8
3	子どもは、時と場に応じたていねいな言葉づかいができる。	74.7	25.3

全体としては、8割を超えており、基本的な生活習慣は概ね身につけていると思われます。ただし、「1 学校へ行くのは楽しい」に「あてはまらない」とした児童の割合が19.2%と昨年度より高くなっており、保護者アンケートにおいても11.7%が同様の回答であり、学校の取組をさらに充実させていく必要があります。「2 あいさつ」に関しては、「あ

てはまらない」とした児童が昨年度より3%高くなっています。学級の指導に加え、委員会活動のあいさつ運動等継続して取り組んでいきたいと考えています。「3 チャイムの合図を守り」については年度当初から取り組んでおり、児童の意識が高まってきています。取組を継続し、けじめのある学校生活を学習の充実にもつなげていきたいと考えています。「4 責任をもって」の評価は90.2%の児童が「あてはまる」と回答しており、係や当番の仕事が主体的に取り組めていることが伺えます。「5 言葉づかい」については、「あてはまらない」とした児童の割合が12.9%と昨年度より低くなっている一方で、「あてはまらない」とした保護者の割合が25.3%と昨年度より8%高くなっており、時と場に応じた言葉遣いに課題を感じていることが伺えます。あいさつ同様、学校全体で取り組むべき課題の一つであると考えています。

令和5年度は、「学校へ行くのが楽しい」と感じられる学校生活にしていくために、児童一人一人が充実感や達成感を味わい、成長を感じることでできる教育活動のさらなる充実に向けて取り組んでいきます。

2 確かな学力

●児童アンケート

番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
6	授業は楽しくてよくわかる。	82.4	17.6
7	自分から進んで学習に取り組んでいる。	76.4	23.6
8	この1年で漢字や計算の力がついてきた。	89.2	10.8
9	この1年でよく考えたり伝え合ったりする力がついてきた	88.5	11.5
10	グループで話し合ったり課題を解決したりする学習はおもしろい。	85.0	15.0
11	校外学習やゲストティーチャーによる学習はおもしろい。	88.3	11.7
12	タブレットを使った学習はおもしろい。	89.8	10.2

●保護者アンケート

4	子どもは、学校で学習したことをよく理解している。	78.6	21.4
5	子どもは、自分から進んで学習に取り組んでいる。	64.6	35.4
6	学校あ、学力向上に向けて熱心に取り組んでいる。	78.3	21.7

児童のほとんどの項目で昨年度に比べて評価が高くなっており、8割以上の児童が肯定的な評価をしています。特に「10 話し合ったり課題を解決したりする学習」をおもしろいと感じる児童が多くなってきており、コロナ禍による制限の中、協働的な学習形態や課題解決学習を工夫してきた成果が出てきているものと考えます。一方で、保護者は「4 学校で学習したことをよく理解している」「5 自分から進んで学習に取り組んでいる」の評価が児童の評価よりも低くなっています。「学習内容の理解」は「テストの点数」、「進んで学習に取り組む態度」は「家庭学習に取り組む姿勢」で評価している場合が多いと予想されるため、もっと学年便りや個人懇談等で児童の頑張っている姿を発信する必要性を感じています。「12 タブレットを使った学習はおもしろい」と回答している児童の割合は、昨年度とほぼ同じ9割程度でしたが、タブレットそのものをおもしろいと感じることから、タブレットを使った学びにおもしろさを感じるように変化してきていることを児童の様子から感じています。このことは教員アンケートの「タブレットや ICT 機器を効果的に活用している」と答えた教員の割合が大幅に増加しており、学習においてより効果的に活用されるようになってきた成果であると考えています。

令和5年度は、「楽しくよくわかる授業」「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の充実継続して取り組んでいきます。授業の導入で児童が課題をつかめるような問いの工夫やタブレットのより効果的な活用を進めることで、主体的な学習態度や学習効果の向上をめざします。

3 豊かな心・社会性

●児童アンケート

番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
13	自分にはよいところがある。	80.2	19.8
14	明るく前向きに生活することができる。	87.5	12.5
15	あきらめないで最後までがんばることができる。	83.2	16.8
16	友達や周りの人の気持ちを考えることができる。	85.5	14.5
17	自分も友達もよりよくなるように考えて行動することができる。	88.8	11.2
18	進んで読書をしている。	64.9	35.1

●保護者アンケート

7	子どもは、自分のよいところを知っている。	78.0	22.0
8	子どもは、進んで読書をしている。	50.5	49.5
9	学校は、子どもの心を育てる教育を行っている。	78.4	21.6
10	学校は、互いに認め合い大切にしよう仲間づくりに取り組んでいる。	78.1	21.9

「13 自分にはよいところがある」の評価が、児童・保護者ともに昨年度よりややポイントが下がっています。自尊心や自己肯定感、人権教育の基盤となり、児童が向上心をもって前向きに生活していくために不可欠です。自分や友達のよいところみつけなどの取組を継続していくとともに、さらにポジティブな行動支援を心がける必要があると考えます。「14 明るく前向きに」「15 あきらめないで最後まで」といった心の育ちは、日々の生活や活動の中で培われるものですが、昨年度よりポイントが下がっており、コロナ禍で様々な活動が中止、制限されたことが影響していると思われます。今後は、できる範囲で異年齢集団活動や体験活動を取り入れ、児童の豊かな心を育てていく必要性を感じています。「16 周りの人の気持ち」「17 自分も友達もよくなるように」考える力は、友達との関わりや集団での活動の中で育まれていくことから、児童が活躍する機会を多く確保することで、自己有用感を高めていきたいと考えます。「18 進んで読書している」については、今年

度より設問に取り入れたところ、読書習慣の定着が不十分であることがわかり、今後の課題の一つであるといえます。

令和5年度は、児童の自尊感情や社会性を育てることを意識した取組を推進することや具体的な方策による読書活動に取り組んでいきたいと考えます。

4 健やかな体・安心安全

●児童アンケート

番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
19	運動したり体を動かしたりすることが好きだ。	87.2	12.8
20	晴れの日には一日に1回は外で遊んでいる。	83.8	16.2
21	朝ごはんを毎日食べている。	94.2	5.8
22	給食を好きさきらいしたり残したりしないで食べている。	73.3	26.7
23	けがや病気をしないように安全に生活している。	89.8	10.2
24	困ったときに相談できる先生や友達がいる。	88.1	11.9

●保護者アンケート

11	学校は、子どもの体力・運動能力の向上に努めている。	86.6	13.4
12	学校は、食育を通して健康な体や心を育てようとしている。	92.6	7.4
13	学校は、安全で安心な学校生活ができるように努めている。	86.3	13.7

児童の「19 運動したり体を動かしたりすることが好きだ」「20 晴れの日には一日に1回は外で遊んでいる」のプラス評価が昨年度よりも下がっていることから、運動好きな子どもたちにしていくために、体育授業の改善や年間カリキュラムの整備、休み時間の体育館開放などに取り組んでいきたいと考えています。児童の「21 朝ごはんを毎日食べている」について、ほとんどの児童が朝食をとる習慣が定着していることがわかります。しかし、「22 給食を好きさきらいしたり残したりしないで食べている」のマイナス評価が他と比べて高いため、基本的な生活習慣や運動習慣の改善とも関連させた指導をしていきたいと考えています。「24 困ったときに相談できる先生や友達がいる」に関して「あてはまらない」と答えた児童の割合は昨年度より減少しましたが、1割程度の児童が相談しにくい状況にあるという事実を真摯に受け止め、教員との信頼関係や児童相互の良好な人間関係づくりを築く事ができるよう努めていきます。また、保護者の「13 学校は、安全で安心な学校生活ができるように努めている」のプラス評価が昨年度より下がっているため、心の健康を重視し、落ち着いた学校生活が送れるよう取り組んで参ります。

令和5年度は、どの子にとっても学校が安全安心な居場所となるために、児童相互の豊かな関係づくりや教員とのよりよい信頼関係を構築していくことに重点をおいた学級づくりを推進していくとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携の強化にも取り組んでいきます。

5 家庭・地域との連携

●保護者アンケート

番号	内 容	あてはまる	あてはまらない
14	学校の教育目標や教育方針に沿って保護者の願いにこたえる教育活動を行おうとしている。	85.3	14.7
15	学校は、保護者からの連絡や相談に誠実に対応しようとしている。	89.4	10.6
16	学校は、子どもたちや学校の様子などをお知らせやHPなどにより適切に伝えている。	89.1	10.9

家庭・地域との連携について、アンケート結果では概ね良好な評価をいただいておりますが、いずれの項目も昨年度より数ポイント減少しています。特に「15 学校は保護者からの連絡や相談に誠実に対応している」において4ポイント近く減少したことを真摯に受け止め、全教職員あげて、より保護者に寄り添った迅速かつ適切な対応を心がけていくよう努めていきます。自由記述では、児童の問題行動への対応やコロナ禍における行事のあり方、情報発信等について様々なご指摘をいただきました。次年度の学校運営に必ず生かしてまいります。ありがとうございました。

健全な児童の育成にはよりよい家庭・地域との連携や情報公開がとて重要であるとの考えから、今年度はPTA参観日の公開時間を増やした自由参観にすることで、学校の様子をじっくりと見ていただくよう心がけてきました。

令和5年度は、さらに来校していただく機会の充実を図ったり、学校の状況や取組の情報発信をより充実させたりすることで、児童を共に育てる意識を家庭・地域と共有していきたいと考えています。

※学校評価については、アンケート結果とともに昭和小学校ホームページに掲載します。

